



写真：糸賀一雄氏  
近江学園の創設者です。

9月の  
もくひょう

生活のけじめをつ  
ける。  
子どもたちが自ら  
決めた目標にむけ  
てどりよくする。

## 「この子らを世の光に」

今月は、『福祉の思想』の著者で日本障害福祉の父といわれる糸賀一雄氏の言葉を紹介していきたいと思います。

「この子らを世の光に」というのは、糸賀一雄氏の有名な言葉です。

### 以下引用

重要な点は、「この子らに世の光をではなく」、「この子らを世の光に」です。「この子らに世の光を」充ててやろうという哀れみの政策を求めるのではなく、この子らが自ら輝く素材そのものであるから、いよいよみがきをかけて、輝かそうという意味です。

「この子らを世の光に」というフレーズは、社会に対する人への見方・価値観への問でもあり、人と出会うものは、熱い心が必要なのでしょう。時代が変わり施策が進んだとしても、福祉の基はここからなのかもしれません。

私たちk-y's styleは、子どもたちに世の光となってもらえるように、子どもたちが生活主体者であることを理解し、そして潜在的可能性を持った子どもたちをさらにみがきあげられるよう実践しようと思っています。